



秋のオススメ本紹介



YA担当より

“読書の秋”になりましたね！暑さも少しずつ和らいで、過ごしやすくなってきた

この季節、お家でゆっくり読書を楽しんでみてはいかがでしょうか？

YAコーナーでは、ここに紹介した本の他にも、たくさんおすすめ本を取りそろえています。

あなたにぴったりの本が、きっと見つかりますよ♪

①

『レッド』

あかくてあおいクレヨンのはなし」

マイケル・ホール／作
上田 勢子／訳
子どもの未来社
YA書架 Eホ



レッドは、「あか」という色がどういう色か知っていました。そして、自分の体に「レッド」と書いて巻かれているものが何かも知っています。だから、自分の体の色は「あか」のはずだと信じて疑わなかったのです。これを読んでいるわたしたちは思います。「なんだ、『レッド』と間違えて書かれている」と。でもクレヨンたちはくちぐちにいました。「もっとがんばれ！」「きっとできるはずだよ」と。

あたらしいともだちとであって、レッドは、自分の本当の色を知ることができました。どんどんかいていきます。うみ、ブルージーンズ、あおいクジラ！「あかじゃない、あおなんだ！」レッドは叫びました。

②

『響け、希望の音』

東北ユースオーケストラからつながる未来」

田中 宏和／著
フレーベル館
YA書架 764タ

2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。

音楽家の坂本龍一さんは、遠く離れたニューヨークで自分に何かできることはないかと考えます。

「音楽と楽器の力で、こどもたちに笑顔を。」

最初は被災した学校の楽器の修理から始まり、2012年の夏には中高生向けのライブイベントを開催。そして、被災地の子どもたちによる混成オーケストラ結成の話が持ち上がりました。「東北ユースオーケストラ」の誕生です。条件は被災三県で震災を経験した小学4年生から大学生までの子どもたち。年代も考え方も様々な彼らの活動をつづったノンフィクションです。

③

『イーブン』

村上 しいこ／作
小学館
YA書架 913ム

中学生の美桜里は、父親のDVが原因で両親が離婚、さらに友だちと喧嘩し学校へ行けなくなってしまいます。そんな時、カレーのキッチンカーをしている貴夫と、16歳の登夢と出会いました。登夢も学校へは行っていません。

相談にのろうとする登夢に、美桜里は悩みを打ち明けることができません。登夢は、いろいろなことを話すには信頼関係が必要で、イーブンでなければいけないと自分の過去を話します。また、美桜里は両親にも辛い過去があることを知ります。

タイトルでもあるイーブンとは、「対等」を意味する言葉です。

対等な関係とはなんなのか、どのように関わっていけばいいのかを考えたいなる1冊です。

④

『黒い兄弟 上・下』

リザ・テツナー／著
酒寄 進一／訳
あすなろ書房
YA書架 943テ

ある夏の日、13歳になるジョルジョの父に、〈ほおに傷〉のある男が話しかけます。「13になる息子を売ってくれ」と。その時、父は断るもののまた、次の年にやってくると言って男は去っていきます。その後、貧しい生活の中で、ジョルジョは〈ほおに傷〉のある男に売られてしまいます。

スイスの村から、奴隷として売られた先はイタリアのミラノ。そこでは、多くの少年たちが煙突掃除の働き手として売られてきていました。ジョルジョには苦難を共にする煙突掃除夫の仲間がたくさんできますが、辛く苦しい生活が続いていきます。仲間と共に「黒い兄弟」という名前の秘密結社をつくり、自分たちの敵と闘い、必死に生きる少年たちの物語です。

YAとは…ヤングアダルトの略で、「子どもでも大人でもない世代」のこと。13歳から19歳くらいが主な対象です。

佐賀市立図書館

